『國民新報』1939年12月17日

[主張]　興亞の基本思想[[1]](#footnote-1)

　る十一十八二に、がされたのにするが、十一一されて、にされ、にさるゝことゝなつた。

　のとして、（一）の、（二）の、（三）アジアの、（四）のがげられてり、としてはのをするとともに、らのをし、ののとしてのをじて、族ののたらしむることをて、のとせねばならぬ[、]とひ、にしては、にとしてのをせしむることは、の一として、をせしむるにくべからざるとある。

　ににしては、による、なるにおいて、のむるところは、やではなく、にのにあるが、これがゆゑんは、一族のとのは、族のにするにしないからである。し『ウシハク』[[2]](#footnote-2)にあらずして『シラス』[[3]](#footnote-3)ことをてとすることは、わがのであり、にのでもあるからであるとひ、に一をめて、〝族のにおいて、族をするはきなるをて、わがのは、族ののたるべきによるべきである″となつてる。

　がのたる、のをなすものであるが、にのちののでゞもある。

　かゝるのは、ににのないことであつて、かののにしてるには、そのがらないかもれない。これをしも一のによつて、いはゆるのくするかもれない。しかしながらののによつて、これのが、んでのりで一のもなき、そのものであることをすがくないであらう。ののんたるかをにしらすことがちをふことでなくてはならない。

　たるもの、づのをして、一一このにき、こののでなくてはならない。そしてづ、アジアの族に、このいをば、せしむるは、は々のであることをせねばならぬ。

1. この文章は単行本『同胞に告ぐ』には収録されていない。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 「ウシハク（領く）」は「自分のものとして領有する」の意。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 「シラス（知らす）」は「お治めになる」の意。 [↑](#footnote-ref-3)